

令和 7 年度

**おかやま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会
事業実績報告書**

おかやま中高年世代活躍応援プロジェクト協議会

■ 目標、K P I 及び取組について

(1) 不安定な就労状態にある方

【目 標】

正規雇用を希望していながら不本意に非正規雇用で働く方や求職中の方などに係る正規雇用者数を目標とする。

【K P I】

- ・ ハローワークの紹介による中高年世代の正社員就職件数 2, 5 0 3 件以上
実績については、岡山労働局における35～59歳の「正社員雇用の機会に恵まれなかった方（雇入れ日前1年間に正社員として雇用されていない者、かつ、雇入れ日直近5年間に正社員としての雇用期間が通算1年以下の者等）」の正社員就職件数により把握する。

【労働局】

令和7年度：2,568件 [達成率102.6%]

- ・ 公的職業訓練の修了から3ヶ月以内の就職件数 9 8 0 件以上

【労働局】

令和7年度：976件 [達成率99.6%]

- ・ 岡山市が行う社会参加活躍等孤独・孤立対策推進交付金事業を活用した就職者数 3 5 人

【岡山市】

令和7年度：28人 [達成率80%]

⑨ 岡山市就職・転職活動サポート事業として実施

【取 組】

(相談体制の充実)

- ア ハローワーク岡山、ハローワーク倉敷中央に中高年層（ミドルシニア）専門窓口を設置し、安定雇用から職場定着に向けた伴走型のチーム支援を実施する。

【労働局】

令和7年4月1日付け ハローワーク岡山 ミドル世代窓口 設置

令和7年4月1日付け ハローワーク倉敷中央 ミドルエイジ専門窓口 設置

いずれも、就労・生活支援アドバイザー、就職支援コーディネーター、職業相談員を配置し、チーム支援を実施。

	新規登録者数	就職者数
中高年層（ミドルシニア）専門窓口	2, 289	1, 204

- イ ジョブカフェおかやまの支援対象年齢である概ね50歳までの方に対し、個別就職相談、各種セミナー等による就職支援を実施する。

【県】 【ジョブカフェおかやま】

○ 常設ジョブカフェでの相談実績

- ・ 39歳以上の登録者数 7 0 人
- ・ 39歳以上の相談利用件数 4 4 8 件
- ・ うち就職決定者 2 2 人（正規11人、非正規11人）

ウ 安定した就職に役立つ技能・知識等の習得という観点から職業相談を行った上で、公的職業訓練の受講あっせんを行い、訓練受講中から職場定着までの一貫した就職支援を実施する。

[労働局]

安定した職業への就職を促進するため、公的職業訓練への適切な受講あっせんを行うとともに、訓練開始前から訓練修了後までのきめ細かな個別・伴走型支援により、支援体制の充実を図った。

エ 連合岡山の「なんでも労働相談」において、非正規労働者等の相談支援を行う。

[連合岡山]

なんでも労働相談件数（2025.1.1～2025.12.31） 235件

（職業能力開発等に向けた支援）

ア 離職者、求職者、在職者それぞれのニーズに対応し、安定就労に有効な職業能力等の習得を目指す公的職業訓練の実施等によるスキルアップや新たなキャリアへの挑戦を支援する。

なお、訓練コース等の設定に当たっては、正社員就職のために資する内容とするよう配慮する。

[労働局]

各ハローワーク窓口において、県及び機構等が実施する職業訓練情報を提供し、希望する職業への就職可能性を高めるため、適切な公的職業訓練への誘導、受講あっせんを行った。

また、訓練希望者に対しては、就職の方向性や訓練受講の必要性をより明確にするため、ジョブ・カード作成支援等のキャリア形成支援も行った。

[県]

県立高等技術専門校において、ものづくり分野を中心に離職者等への職業訓練（施設内訓練）及び在職者への職業訓練を実施するとともに、離職者等の再就職対策を強化する観点から、国の委託事業として民間教育機関を活用した職業訓練を実施した。

また、施設内訓練の一部に就職氷河期世代を含む中高年世代を対象とした入校優先枠を設定した。

[岡山市]

- ・ 就職氷河期世代を含む中高年層を始め、幅広い世代の方を対象とした個別相談窓口を設置（R7.7.1～R8.3.31）
個別相談者数 93名（男性43名、女性50名）
- ・ リ・スキリング研修を開催（R7.8.19～R8.2.19）
参加者数80名（男性13名、女性67名）
- ・ 就職支援研修を開催（R7.7.28～R8.2.16）
参加者数48名（男性16名、女性32名）
- ・ 交流会を開催（R7.10.28～R8.2.17）
参加者数14名（男性1名、女性13名）
- ・ 職場見学 16名（男性9名、女性7名）

[機構]

令和7年度の離職者訓練については、機械、溶接、電気・電子、居住関連の訓練を実施し、全科定員412名に対し、298名が受講した。

また、在職者訓練においては、岡山県下の機構施設において 目標定員 1,420名に対し、1,393名を実施した。

(マッチング支援)

ア 中小企業とのマッチングイベントを開催する。

[中国経済産業局]

- ・ 中高年世代を含む多様な人材の活用促進のため中小企業等向けセミナー及びワークショップを開催。
 - ①副業・兼業活用オンラインセミナー（R 7.9.16ほか計6回）
参加企業数：延べ41社
 - ②副業・兼業活用リアルセミナー@倉敷市（R7.11.19）
参加企業数：4社
 - ③副業・兼業活用リアルセミナー@津山市（R7.12.16）
参加企業数：18社
 - ④戦略策定セミナー@岡山市＋オンライン（R 7.10.16）
参加企業数：28社
 - ⑤戦略策定ワークショップ@岡山市＋オンライン（R 7.12.9）
参加企業数：8社

[岡山市]

- ・ 合同企業説明会を開催
 - 日 時 令和7年12月2日 13:30～16:00
 - 場 所 岡山コンベンションセンター
 - 参加企業 32社
 - 参加求職者 66名
- ・ 職場見学会（バスツアー）を開催
 - 日 時 令和8年3月10日
 - 参加企業 2社
 - 参加求職者 4名

[岡山県中小企業団体中央会]

- ・ 各機関が実施する就職氷河期世代を対象とした合同企業説明会等のマッチングイベントに関する広報を、メーリングリストを活用して情報発信したほか、当会運営の企業ポータルサイトでの広報発信、コーディネーターによる企業等へのPR活動を行った。

[労働局]

- ・ ミドルエイジ就職応援フェアを開催（ハローワーク倉敷中央主催）
 - 日 時 令和8年1月22日 14:00～16:00
 - 場 所 イオンモール倉敷
 - 参加企業 21社
 - 参加求職者 136名（男性59名、女性77名）

イ ハローワーク岡山の中高年層（ミドルシニア）専門窓口において、関係機関と連携しチーム支援を中心とした相談体制を整備する。

[労働局]

サポステ利用者について、効果的な就労支援が行えるよう、定期的にサポステ担当者と就職氷河期世代専門窓口で情報交換を行い、サポステ利用者に対する支援計画の策定やプログラムの実施の充実を図った。

(企業向けの支援)

ア 中高年世代の正社員就職の促進に資するよう、県内企業に対する中高年層（ミドルシニア）限定求人の申込み促進等、必要な周知・啓発を実施する。

[労働局]

ハローワークに対して、中高年層（ミドルシニア）限定又は歓迎求人の申し込み促進並びに労働局ホームページに開設している「就職氷河期世代活躍応援サイト」を通じて中高年層（ミドルシニア）対象求人の申込みを勧奨した。

イ 中高年世代の非正規雇用労働者の正規雇用促進を図るため、トライアル雇用助成金や特定求職者雇用開発助成金等の周知及び活用促進に連携して取り組む。

また、企業内での正社員転換等の取組を促進するため、キャリアアップ助成金や人材開発支援助成金等の周知及び活用促進に連携して取り組む。

[経済団体]

[岡山県経営者協会]

当協会ホームページに岡山県の「おかやまシニア就業サポート」のリンクを貼り、周知に協力した。

[労働局]

各ハローワークの窓口において、中高年世代の正規雇用・転換を促進するため、トライアル雇用助成金やキャリアアップ助成金等の活用を促進した。

また、労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」内において、活用できる助成金の案内を掲載した。

[県]

県ホームページへ「無期転換ルール」について掲載した。

ウ 積極的に中高年世代を正社員採用・正社員転換する企業の発掘に取り組む。

[岡山市]

合同企業説明会にて当該世代の採用を検討する企業を公募し、31社の参加を得た。

[労働局]

各ハローワークの窓口において、中高年世代の正規雇用・転換を促進するため、キャリアアップ助成金等の活用を促進した。また、中高年世代世代限定又は歓迎並びに正社員求人の開拓にも取り組んだ。

(2) 就業を希望しながら長期にわたり無業の状態にある方

【目 標】

地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という。）を中心に、当事者やその家族の希望に応じ、求職活動へ踏み出すための支援を行い、就労その他の職業的自立につなげることを目指す。

【K P I】

- ・ サポステにおける新規登録者数 300人以上
- ・ サポステにおける相談件数 6,300件以上

【サポステ】

・ サポステおかやま	新規登録者	137人	相談件数	3,678件
・ サポステくらしき	新規登録者	134人	相談件数	1,758件
計		271人		5,436件
		[達成率 90.3%]		[達成率 86.3%]

【取 組】

（相談支援）

ア サポステの支援対象年齢である49歳までの方に対し、中高年世代の支援ニーズに対応した相談体制を整備する。

【労働局】

サポステの利用対象は、49歳までの就職氷河期世代を含む若年無業者等であることを周知するため、サポステが作成したリーフレットを各ハローワーク窓口でも配布し、サポステの支援が必要と思われる対象者に利用勧奨を行った。

【県】 【サポステ】

【サポステおかやま】

- ・ 35歳以上の利用者相談回数791回。利用勧奨のため、チラシを5,060部配布。（マックスバリュ、マルナカ、イオンリテール、おかやまコープ、セブンイレブン）
- ・ ハローワーク等へサポステ広報誌を毎月94ヶ所送付（5,640部）。
- ・ おかやまサポステ情報をホームページ、YouTube広告、SNS(Instagram、X)、バス広告に掲載。
- ・ 専任の相談員（キャリアコンサルタント）を3名配置。
- ・ 中高年世代活躍応援プロジェクトへのブース2回出展（岡山会場、津山会場）。
- ・ ハローワーク職員へ向けたサポステ事業説明を実施。
- ・ ハローワーク岡山の出張セミナー開催（年4回）。
- ・ ハローワーク津山に適職診断開催チラシを掲示。

【サポステくらしき】

- ・ 35歳以上の利用者相談回数519回。利用勧奨のため、チラシを配布1,740部配布。（イオンリテール、おかやまコープ）
- ・ くらしきサポステ情報をホームページ、SNS（Instagram、X）に掲載。
- ・ 専任の相談員（キャリアコンサルタント）を3名配置。
- ・ 利用者及び関係先へ、リーフレット・チラシを配布（3,300部）。
- ・ 周知広報のため、倉敷市広報誌（年2回）、笠岡市広報誌（年4回）へ掲載。
- ・ 就職氷河期向けセミナーを開催（年4回）。
40歳代のためのライフシュミレーション講座（年2回）
実践型就労プログラム説明会（年2回）
- ・ ハローワーク倉敷中央にて出張相談を月1回開催。（要予約）

イ サポステの支援対象者向けの企業説明会を開催する。

[県] [サポステ]

[サポステおかやま]

- サポステ所内での企業説明会を計4回（令和7年5月、9月、11月、1月）開催。
 - ・ 5月開催
株式会社アグリスジャパン「吉備高原のぶどう園で働いてみませか？」7名参加
 - ・ 9月開催
株式会社ワークスタッフ「派遣の働き方とは」3名参加
 - ・ 11月開催
はるやま商事株式会社「スーツのプロが教えます！就活着こなし講座」5名参加
 - ・ 1月開催
株式会社魚宗フーズ「調理補助のお仕事について」10名参加
 - ・ 3月開催
藤クリーン株式会社「リサイクル業務の作業員について」3名参加

[サポステくらしき]

- 備中エリアを対象とした実践型就労プログラム説明会を令和7年8月20日、10月15日に開催。（参加企業6社、参加者8名うち就職氷河期世代2名）
 - ・ 同説明会において、各企業と参加者の名刺交換会を同時開催。
 - ・ 同説明会参加者の内、職場見学・職場体験・実践型就労プログラムを経て就業（20h以上）の就業に至った方は4名。うち就職氷河期世代は1名であった。
 - ・ 各関係機関へ事業説明及び周知広報および、ホームページやSNSで発信、ポスターやチラシ配布、広報誌への掲載を行った。

(職場体験等の機会の確保)

ア サポステで提供する「職場体験」等の受入れ先の拡大を図る。

[労働局]

各ハローワーク窓口において、事業主に対しサポステが行う「職場体験」について説明し、受入れの勧奨を行った。

[県]

ラジオや県政広報を用いた広報活動を定期的実施した。また、コンビニ等へのチラシ配置も定期的に行った。

[サポステ]

[サポステおかやま]

- ・ 圏域の新規企業開拓を積極的に行った。見学先企業36社。
- ・ 企業説明会のブース出展に合わせて、企業へ職場体験等の受入れを依頼した。
- ・ 対象の年齢、事情、課題のある方へご理解をいただける企業を開拓。
- ・ 岡山県内の連携機関、就労移行支援機関等と企業情報の共有を図った。

[サポステくらしき]

担当圏域内の94企業へ職場体験及び見学の受け入れが可能かどうか、郵送でメールでアンケートを実施。アンケート結果や求人検索時等で既に交渉した企業を含めると、受け入れ可能企業は要相談も含めて13社となった。今後もハローワーク求人票等を活用し、企業の新規開拓を行う。

イ 職場定着支援など受入体制整備（職場体験・実習等の機会確保を含む）等への取組について、業界団体や企業等へ要請を行うとともに、好事例の収集・提供など必要な支援を行う。

[労働局] [県]

入社後の人材育成、職場定着の促進等への取組について、経済団体及び県内事業所（約6,300社）に対し、知事、教育長、労働局長の連名により要請を行った。
(令和7年5月29日)

(3) 社会参加に向けた支援を必要とする方（ひきこもりの方等）

【目 標】

当事者及びその家族のニーズや状態に応じ、支援が必要な方に確実に支援が届くよう、身近なところで相談し、支援を受けられる体制を整備するとともに、市町村プラットフォーム（以下「市町村P F」という。）の設置を契機とした地域における様々な関係機関のネットワークを構築することによって、当事者が、社会とつながりながら地域生活を送ることを目指す。

【K P I】

- ・ 県内の支援ニーズ等の把握に努める。
- ・ ひきこもり相談窓口の明確化と周知に努める。
- ・ 市町村P F の設置促進

【県】

- ・ ひきこもり地域支援センターによる電話や来所等による専門相談を実施し、個別の支援ニーズに応じ早期支援に努めるとともに、継続相談及び地域の適切な関係機関への繋ぎや連携に努めた。
（ひきこもり支援担当連絡会 令和7年6月23日 オンライン形式）
- ・ ひきこもり地域支援センター相談件数（※保健所、支所を含む。）
延2,136件
- ・ ひきこもりの相談窓口 全市町村が明確化済み。
- ・ 市町村P F の設置促進 23市町村が設置済。

【取 組】

（相談支援体制の充実）

ア ひきこもり状態にある方やその家族にとって身近な地域での相談・支援の充実を図るため、市町村や関係機関に対して研修会を開催し、ひきこもり支援に対応できる人材育成を進める。また、市町村が行う、ひきこもり状態にある方やその家族に対する支援について、ひきこもり地域支援センター及び保健所等による技術的支援を行う。

【県】

- ・ 支援関係機関を対象に、ひきこもりの理解と支援について専門研修を開催した。
（令和7年8月6日、令和7年10月16日 オンライン形式）
- ・ ひきこもり地域支援センター及び保健所等において、各圏域市町村で開催される連絡会議へ参画するなど市町村支援に努めた。
- ・ 県内3団体に委託し、本人や家族が安心して相談や交流ができる居場所を開設した。

イ 県内の自立相談支援窓口において、生活困窮者への相談支援を行う。

【県内の各自立相談支援機関】

令和7年度新規相談件数 7,521件

〔K H J 岡山きびの会〕

- ・ 県内ひきこもり家族と本人の会として活動
ピアサポーター約10名が月例会（学習、研修、体験発表）や居場所活動（上之町ビル4 F）の運営、訪問、相談に参加している。（週4日、午後）
- ・ 厚生労働省から、新しく「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤」ひきこもりは誰にでも起こりうる社会的課題であることが、示されました。KHJは、ひきこもり本人・家族の人権と尊厳が守られ、自律して自分らしく生きることができることをめざします。
- ・ 令和5年度における居場所利用者のうち2名が、おかやまサポートステーションを通じて1名、就労移行事業を通じて1名が就労に繋がっており、現在も2名は継続して就労している。（令和8年3月末時点）
1名は、令和7年5月例会で「私のモチベーショングラフ」と題して、ひきこもりを含む生い立ちを発表しました。もう1名は、令和7年8月例会で「ピア・カウンセリング講座を受けて」と題して、ピアとして活動したいと体験発表した。

(地域でのネットワーク形成)

ア それぞれの地域における、様々な関係機関のネットワーク構築の取組を強化するため、早期の市町村ＰＦの設置に努めるとともに、おかやま協議会との連携を図る。

イ 当事者及びその家族が身近なところで相談できるよう、市町村の相談窓口を明確化した上で、住民に周知を図る。

[県]

市町村プラットフォームについて状況提供するとともに、ひきこもり地域支援センター及び保健所等において、各圏域市町村で開催される連絡会議へ参画するなどし、市町村における関係機関のネットワーク構築の取組を支援し、ひきこもり支援施策の推進が図られるよう努めた。

また、県及び市町村のひきこもり相談窓口について、県のホームページに掲載する等周知を図った。

[岡山県社会福祉協議会]

岡山県内でひきこもり支援に取り組んでいる総社市社会福祉協議会「ひきこもり支援等検討委員会」や瀬戸内市社会福祉協議会「ひきこもりサポートセンター」等の活動を通して、サポーター養成や集いの場の確保といった支援内容の把握に努めるとともに、必要に応じて情報共有を行った。

また、市町村域における社会福祉法人ネットワークによる地域公益活動の一環として、中高年世代の住民に対する食料支援や住環境の清掃活動等を実施し、社会参加の促進を図った。

あわせて、生活困窮者支援を通じた地域づくりに向けて、つながり続ける支援について共通理解を図るとともに、早期把握と見守りができるネットワークを構築していくために、関係者同士の相互理解を図ることを目的とした関係機関研修会を開催した。

今年度からの取組として、市町村社協・生活困窮者自立支援関係機関等連絡会議を年３回開催し、就労支援をテーマに課題や取組のヒントについて情報交換を行った。県内外の取組紹介を通じて、公的な支援や制度だけではない、民間の支援や地域住民と共に行う地域における生活困窮者の働く場や参加する場について考えるきっかけづくりを図った。

さらに、岡山県から「孤独・孤立対策プラットフォーム事業」を受託し、多様な主体が参画する体制を構築するとともに、孤独・孤立の深刻化を防ぐ早期支援を通じて、誰一人取り残さない地域づくりの推進に向けて各種事業に取り組んだ。

～「孤独・孤立対策プラットフォーム事業」の実施概要～

〔令和７年度末時点の参画団体数〕 79団体・10相談窓口

〔具体的事業〕

- ①岡山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム キックオフミーティングの開催
- ②孤独・孤立対策シンポジウムの開催（岡山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設立記念）
- ③つながりづくりワークショップ（交流会）の開催
- ④ポータルサイトの開設・運営

■ 対象横断的な取組

【目標】

各種の取組等を着実に実施していくことと併せて、支援が必要な方等に取り組を知ってもらい活用してもらうこと、取組の進捗状況を検証して改善・向上を図っていくことが重要である。このため、おかやま協議会の構成員それぞれの強みを活かした効果的かつ継続的な広報を展開するとともに、中高年世代支援に係る各種情報収集に努める。

【主な取組等】

- ア 各種の取組等の周知や中高年世代の方の活躍促進等に向けた気運醸成を図るため、「中高年世代活躍応援プロジェクト（岡山労働局委託事業）」において、支援対象者向けリーフレットの作成や、セミナー、就職面接会等を開催する。
傘下の事業所や利用者に当該委託事業にかかる取組周知を図る。

〔労働局・全構成員〕

〔労働局〕

委託事業では、就職氷河期世代を含む中高年世代の就職・転職支援及び正社員化等安定就労への支援を目的とした合同企業説明会を3回開催した。

合同企業説明会開始前には、中高年人材の確保、育成ノウハウや社内体制整備に関する企業向けセミナー及び合同説明会を有効活用し、自分らしい仕事の見つけ方に関する求職者向けセミナーを実施した。

また、合同企業説明のチラシ・ポスターの作成、労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」内での周知、専用ホームページの開設等により幅広く周知広報を行った。

- ・ 岡山会場 令和7年11月19日(水) 13:00～16:00
場 所 岡山コンベンションセンター レセプションホール
企業セミナー 13:00～14:00 (19社参加)
求職者セミナー 14:00～14:30 (49名参加)
企業説明会 14:30～16:00
参加企業 19社
参加者 49名
- ・ 倉敷会場 令和7年12月2日(木) 13:00～16:00
場 所 倉敷市民会館 大会議室兼展示室
企業セミナー 13:00～14:00 (19社参加)
求職者セミナー 14:00～14:30 (54名参加)
企業説明会 14:30～16:00
参加企業 21社
参加者 54名
- ・ 津山会場 令和8年1月23日(金) 13:00～16:00
場 所 津山圏域雇用労働センター 大ホール
企業セミナー 13:00～14:00 (11社参加)
求職者セミナー 14:00～14:30 (9名参加)
企業説明会 14:30～16:00
参加企業 16社
参加者 13名

〔岡山県経営者協会〕

厚生労働省作成の「中高年の活躍支援」リーフレットを協会事務所内雑誌架に置き、来訪者が容易に取れるようにし、普及に努めた。

〔岡山県商工会議所連合会〕

合同企業説明会チラシを商工会議所事務所に配架し、周知・広報に努めた。

〔機構〕

離職者訓練受講者約200名に対し、リーフレットを配布した。

職業訓練セミナーを実施した。（くらしき地域若者サポートステーション、ハローワーク津山、ハローワーク笠岡）

他機関が行う就職面接会開催情報を離職者訓練生に情報提供・誘導した。

G D N、インスタグラムを活用した広報、オンライン説明会を毎月実施した。

イ 各種の取組の成果等を的確に把握・分析するため、必要なデータや支援事例等の収集・整理に努める。

[労働局]

中高年世代（就職氷河期世代を含む）を対象とした合同企業説明会（企業向けセミナー・求職者向けセミナー含む）の参加企業及び参加者に対して、アンケートを実施した。（令和7年11月19日、令和7年12月2日、令和8年1月23日開催）

〔※アンケート結果は別添資料を参照〕

[県]

就職氷河期世代対象の各イベント後、参加者（企業、就職氷河期世代求職者等）に対しアンケートを実施・集計し、次回取組への参考としている。

ウ 県内の各市町村が実施する中高年世代支援のための取組について情報収集し、必要な連携を図る。また、他都道府県での好事例等についても情報収集に努め、おかやま協議会構成員間での横展開を図り、支援施策の改善・向上につなげる。

[労働局] [県] [市長会] [町村会]

岡山市が開催した企業説明会を労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」に掲載のうえ、各構成員により当該サイトにリンクを貼り、周知を図った。

また、ハローワーク岡山でも周知を行った。

エ おかやま協議会の取組や活動等について、市町村や各団体の構成員等に積極的に周知・啓発を行い、社会全体で中高年世代の採用、処遇改善、社会参加を支援する気運の醸成に努める。

[全構成員]

[労働局]

労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」に、支援機関や支援内容を紹介する他、構成員が実施するイベント等の周知を行った。（再掲）

また、就職氷河期世代を対象としたセミナーのチラシを作成し、構成員及び支援機関に配布した他、専用HPを開設等により周知広報を行った。

[県]

県ホームページにおいて、労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」や県が実施するイベント等についての周知を行った。

また、孤独・孤立対策として、多様な主体が参画する「岡山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設立するとともに、シンポジウム及びワークショップを開催した。

[機構]

離職者訓練受講者約200名に対し、イベントリーフレットを配布した。

また、訓練向けの掲示板にイベントリーフレットを掲示・情報提供した。

さらに、求職者支援訓練巡回時に実施機関にイベント情報を提供した。

オ あらゆる手段（メディア、SNS、WEB、イベント等）を活用した広報により、支援対象者一人ひとりのみならず、家族、関係者に対しても各種支援施策や社会全体で支援する気運を効果的に周知する。

[全構成員]

[労働局]

労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」に、支援機関や支援内容を紹介する他、構成員が実施するイベント等の周知を行った。（再掲）

[機構]

- ・ ポリテクセンターにおいて、就職氷河期世代活躍応援イベントポスターの掲示を行った。
- ・ 求職者支援訓練の開催情報について各市報への情報掲載依頼を行った。

[県]

県ホームページにおいて、労働局ホームページ「就職氷河期世代活躍応援サイト」や県が実施するイベント等についての周知を行った。

また、各種制度、相談窓口等について、「おかやま労働」、「働く若者サポートガイド」へ記事を掲載した。（再掲）

- ・ 県立高等技術専門学校入校生等募集記事（おかやま労働 年4回）
- ・ ジョブカフェおかやま紹介記事（働く若者サポートガイド）
- ・ おかやま就職応援センター紹介記事（おかやま労働2026冬号、働く若者サポートガイド）

おかやま労働 1,100部 年4回

働く若者サポートガイド 24,000部（岡山県労働協会と共同）

配布先：市町村、行政関係機関、労働関係機関、報道・研究機関、各セミナー等で配布。労働雇用政策課ホームページへ掲載。